1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　22　年　2　月　4　日

[評価実施概要]

事業所番号	1872000409
法人名	社会福祉法人　敬老会
事業所名	アクティブケアー宮崎
所在地	丹生郡越前町小曽原３３－３４ (電話)　0778-32-3777

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成21年11月27日	評価確定日	平成22年2月4日

[情報提供票より]　(　21　年　10　月　1　日　事業所記入)

(1)組織概要　　管理者

開設年月日	平成　17　年　4　月　11　日		
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	高矢 由佳里　人
職員数	18　人	常勤　9　人、非常勤　7　人、常勤換算　16.6　人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋準耐火構造　造り
	1　階建ての　～　1　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000　円		その他の経費(月額)	15,000　円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380	円

(4)利用者の概要

利用者数	18　名	男性	0　名	女性	18　名
要介護1	5	要介護2	4		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均　84.2　歳	最低	65　歳	最高	96　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	相木病院

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

当ホームは、旧宮崎村の田園に囲まれた山あいの静かな場所にある。ホームの門をくぐると広々と手入れの行き届いた庭園があり、その先にある和風で落ち着いた平屋の建物である。玄関をはさんで2ユニットあり、居間・食堂の共有空間は明るく広々としており、そこからウッドデッキに出て庭園を楽しむこともできる。
職員で話し合い作りあげた9項目の入居者へのケアの在り方を共有し、日々入居者本位の支援を行っている。また、運営母体が病院であり、毎月3～4回医師が往診に来たり、管理栄養士が献立のチェックをするなど、事業所の多機能性を活かした支援を行っており、入居者・家族は安心して医療・福祉のサービスを受けることができる。
地元の生産者からの農産物の購入、日赤奉仕団ボランテイアの受け入れ、地域住民へのホームの開放、シルバー人材センターに庭の手入れを頼むなど、積極的に地域住民ともつながりを深めるように努めている。
入居者は、居心地の良いホームで趣味や特技を楽しみながら毎日を過ごしている。
運営母体が行っているさまざまなサービスと連携して、今後も住み慣れた地域で安心して暮らしていけるようさらなる取組みを期待したい。

[重点項目への取組状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあった「介護計画の見直し」については、個人シートを改善し定期的にモニタリングしたものを活用するように改善している。また、「災害訓練への地域住民の参加」については地元の消防団や住民にも参加してもらって実施している。この他、「運営推進会議」については毎回別の家族に代表として参加を依頼するようにしている。 「重度化や終末期に向けた方針」や「同業者との交流」については、引き続き検討し改善に取り組むことを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニットのリーダーが作成し、管理者がまとめたものをミーティング時に職員に報告している。外部評価の受審結果については、真摯に受け止め、運営推進会議や職員のミーティング時に報告し、意見をもらい改善に向けて取り組んでいる。 今後は、自己評価を各職員の資質向上に向けた自己研鑽の機会と捉え、全員で自己評価に取り組むことを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、町担当課職員・地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族代表者に参加してもらい、2か月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況を報告した後、各委員の立場から助言・要望などをもらっている。 ヒヤリハット事例・インフルエンザ対策などについても意見交換を行い、事業所運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	運営推進会議には、家族代表2名に参加してもらっている。毎回別の家族に参加を依頼し、できるだけ多くの家族の意見を聴くように努めている。また、年2回の家族交流会では、個人ごとに面談をして意見・要望を聴くようにしている。 家族からの意見・要望は職員で話し合い、迅速に対応するようにしている。 この他、玄関先に意見箱を設置しているが今のところ意見はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の農家から米や野菜を購入し、シルバー人材センターに庭の手入れを頼むなど、ホームの運営を通じて、地域とのつながりを深めるように努めている。 また、入居者と職員が地域の祭りに参加したり、地域住民へのホームの開放、日赤奉仕団ボランティアや近所の保育園児の訪問の受け入れ、近所の方が野菜や花を届けてくれるなど、日常的にも交流している。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「わたしたちのこころざし」として、「入居者の人権を尊重した暖かいケア」など9項目について、ケアの在り方を職員で話しあい作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「わたしたちのこころざし」9項目を事務室内に掲げ、毎月のミーティング時に全員で復唱している。 入居者本位の日々の過ごし方に配慮したケアに心がけている。		
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の農家から米や野菜を購入し、シルバー人材センターに庭の手入れを頼むなど、ホームの運営を通じて、地域とのつながりを深めるように努めている。 また、入居者と職員が地域の祭りに参加したり、地域住民へのホームの開放、日赤奉仕団ボランティアや近所の保育園児の訪問の受け入れ、近所の方が野菜や花を届けてくれるなど、日常的にも交流している。		
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は各ユニットのリーダーが作成し、管理者がまとめたものをミーティング時に職員に報告している。 外部評価の受審結果については、真摯に受け止め、運営推進会議や職員のミーティング時に報告し、改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価を各職員の資質向上に向けた自己研鑽の機会と捉え、全員で自己評価に取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町担当課職員・地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族代表者に参加してもらい、2か月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況を報告した後、各委員の立場から助言・要望などをもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは運営推進会議への参加だけでなく、事業所運営面での疑問などについてその都度相談し、連携を図っている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事予定や近況報告などを写真入りで掲載したホーム便りを毎月発行し、看護記録と預かり金収支明細書を同封して各家族に送付している。また、緊急時には電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、毎回別の家族に代表として2名参加を依頼し、できるだけ多くの家族の意見を聴くように努めている。また、年2回の家族交流会では、個人ごとの面談も行い、意見・要望を聴いている。 意見・要望は職員で話し合い、迅速に対応するようにしている。 この他、玄関先に意見箱を設置しているが今のところ意見はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、この1年間では退職に伴いユニット間で1名の異動と最小限になっている。ユニット間では日常的に職員が行き来しているので、入居者との馴染みの関係ができている。 新規採用から1か月間は職員2名体制で馴染みの関係を築くようにし、夜間勤務は1名体制のため採用から3か月間ははずしている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として研修への参加を推奨している。 内部研修は、運営母体で行う新人研修のほか、毎月1回テーマ別研修を行っており、職員の希望を聞き、参加できるようにしている。 外部研修は全職員が年1回は受講できるように計画し、勤務扱いで参加させている。	○	外部研修で学んだ技術・知識等を職員で共有する取り組みも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が県グループホーム連絡協議会に参加しており、同業者との交流は行っているが、事業所間の職員同士の交流は実施していない。 今後は、グループホーム連絡協議会を通じて、交流先を探したいと考えている。	○	事業所間の職員同士の交流を図り、さらなるサービスの質の向上に繋がる取り組みを期待したい。
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と面談し、ホームの見学や1泊2日の体験利用をしてもらい、納得の上で入居してもらっている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の趣味・特技や日常の様子を本人・家族から聞き、日々のケアの中で活かせるように配慮している。 職員は、入居者から手芸や野菜作り・魚のさばき方など得意なことを教わりながら一緒に手伝い、支えあう関係に努めている。 また、入居者が楽しめるように運動会・ひな祭り等の行事も季節に合わせ企画し、実施している。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の思い・希望・これまでの暮らしを聞き、日々のケアの中で本人に声かけをしながら、入居者一人ひとりの思い把握するように努めている。 入居者が家に帰りたいと申し出た時は、本人に寄り添って話を聞いたり、家族に連絡するなど、本人が納得するようなケアに努めている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、家族の思い・意向、本人の状況、担当職員の意見などを基に全職員で話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月ごとに行い、担当職員が毎日の個人シートを確認して介護計画案を作り、それを基に職員会議で話し合い、その結果を家族に説明し意向を踏まえて見直しているが、遅れ気味になっている。	○	見直しの時期にずれが生じないよう、また、本人・家族の意見も十分踏まえた見直しを期待したい。
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体の病院から往診にきてもらったり、デイサービスの福祉バスを利用しかかりつけ医への通院をしたり、隣接している介護老人福祉施設と合同で納涼祭を行うなど、法人の多機能性を活かした連携を図りながら支援している。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医の受診を希望する際は、職員が同行し、診療状況を把握するなど、連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアについては、家族と相談した上で、法人内の医療施設や介護施設へ引き継ぐようにしている。 以前に本人や家族の要望で、慣れ親しんだホームで看取りを行った経験がある。	○	ホームとしての看取りの方針を職員間で話し合い、早い段階で家族にも説明し、意向を確認し、職員・関係者間で共有することを期待したい。
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重		
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人でプライバシーの確保についての研修を行い、秘密保持を職員に徹底している。 職員が排泄の言葉かけにも配慮しながら対応している様子が訪問調査時にうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援している。全員で行うレクリエーションに参加したくない人は見学しており、食事の片付けや洗濯物を畳んだり、テレビを見たり、ベッドに横になるなど、本人が思い思いに過ごせるように支援している。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査時、入居者と全職員が一つのテーブルを囲み、和気あいあいとした和やかな昼食であった。盛りつけは入居者2人が、お膳運びは全員で行っていた。 入居者が交代で「いただきます」と「ごちそうさまでした」の号令をかけている。 また、誕生日には当事者の好きなメニューを用意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回の入浴になっているが、希望があればいつでも入れるように対応している。また、入浴を嫌がる時には無理強いをせず、話しかけながら本人に入浴しようかなという気にさせるようにしている。浴室はひのき風呂の個浴で窓越しに庭が見え、入居者はゆったりと楽しみながら入浴している。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ウッドデッキで庭を眺めながらお茶を飲んだり、天気の良い日に昼食を庭に出て摂ったりしている。また、花の水やり・編み物・廊下を掃除するなど、本人の得意なことを手伝ってもらい、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回、車で遠出をし外出を楽しんでいる。個人的には庭に出たり、ウッドデッキを歩くなど、自由に外の空気を味わっている。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、自由に外へ出入りすることができる。また、居室や居間からはウッドデッキに自由に出ることができる。 入居者が敷地外に外出しようとする時は、職員が同行している。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもとに、防火・避難訓練を実施している。 平成21年から地区消防団と近隣住民にも参加してもらっている。		
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員が家庭的なメニューを考え、運営母体の病院の管理栄養士に栄養バランスをチェックしてもらっている。水分は、食事・お茶の時間などに適量を取るように支援している。 栄養・水分摂取量は毎回記録し、家族にも報告している。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風庭園は手入れが行き届いており、居間は明るく、入居者の写真・書画・張り絵等が飾られており、ゆったりとした心地良い空間となっている。浴室はひのき風呂で、居間と各居室にはウッドデッキが取り付けられ、自由にベランダに出て庭園を楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室で落ち着きがあり、入居者のたんす・家族の写真などの馴染みの物が持ち込まれ、本人が居心地の良い空間となるよう工夫されている。		

アクティブケアー宮崎（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分が望む介護を職員一人一人が出し合い、その中から絞込み、理念を「わたしたちのこころざし」におきかえて、9つの具体的なものを作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内での掲示や職員一人一人に理念（私たちのこころざし）が記載されている文書を配布して、常に理念を意識して日々の業務において実践できるように取り組んでいる。	○	理念を全職員が共有しより実践できるように、ミーティング等で目標をたてたり、実践できているか評価していくように取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内に掲示したり、広報に掲載して地域に配布している。	○	運営推進会議や地域の会合等において、理念を提示し理解してもらえるよう取り組んでいく。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人に出会ったときは、時候のあいさつや田畑のことなど共通の話題で会話するように努めている。気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいはできていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	食材の仕入れの一部は、地域の業者から仕入れしたり、地区の神社に入居者と一緒に参拝している。また近隣住民、地区の消防団員も参加する避難訓練を実施している。	○	地域活動に積極的に参加して、地元の人々と交流することに努めていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	シルバー人材を利用して働く場の提供や、ボランティア活動を取りいれている。また地域の高齢者の通院等に利用してもらう福祉有償運送事業を実施している。	○	事業所としてできることを職員間で話し合い検討し、認知症の予防や介護など、経験の中から地域の人に情報提供していきたい。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で、記述内容の不十分さを指摘されたので、今回の自己評価の作成は一部リーダーに記載してもらい、全項目において日々のケアを振り返りながら内容をまとめた。しかし評価の意義や前回評価での改善課題については管理者からの報告にで終わったので、職員間では評価が活かされていない。	○	職員間で評価の意義を話し合い、評価での改善課題についても職員間で検討し、評価を活かしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員からの意見や助言は取り入れる事ができるものについては積極的に取り入れ、委員会において報告している。また外部評価の改善課題についても同様である。		

項目番号	項　　目		○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の担当者の出席や報告所の提出をしている。また質問、相談などは直接電話やメールなどで行っている。	○	情報交換を積極的に実施して、サービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は該当者がいないので活用していない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。	○	職員の言動や行為が意識しなくても虐待に当たる場合もあることを職員間で話し合い、虐待が行われないようにしていく。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約に関する説明を行い、理解･納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		○	担当の職員がじっくり聞く機会を作り、入居者の代弁者となって外部者へあらわし、サービスの質の向上になるよう取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族にホームの広報や看護記録、預かり金収支明細書を送付し、健康状態、レクや行事等の活動の様子をお知らせしている。また必要に応じ、面会時や電話で連絡･報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、意見苦情等をいつでも書き込まれるようにしている。また運営推進会議や家族交流会、面会時などで個別に対応し、意見、不満、要望、苦情がないか尋ねている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで必要な情報を伝え、同時に活発な意見を求め協議している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、家族の要望に対応できるように、計画的に人員を配置して勤務の調整をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体、法人内での研修など全職員対象に年12回実施している。また外部研修についても一人1～2回は受講している。只、外部研修については職員間での共有が不十分である。	○	外部研修で得た知識や技術、情報を職員間で共有する為に、勉強会を兼ねた発表の機会を作って行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○	地域内の同業者との交流を深め、情報交換ができるような取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットごとに親睦会を計画したり、個人面談などを行って、個々の相談の場を設けている。	○	継続して実施していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に面談の場で評価など話し合っている。、	○	各自の評価をして個々に面談の場で話し合い、目標を決めて向上心につなげていきたい。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にいたるまでは面談をして身体状況など調査するが、本人自身から不安なこと、求めていること等はよく聴く機会は作っていなかった。	○	利用にいたるまでの面談時において、本人自身の話をじっくりと聞き受け止めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の申し込み時において、介護の状況を聞いている。	○	入居の申し込み時だけでなく、利用にいたるまでの期間中においても、介護の状況や困っていることを聞く機会を作っていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込み時において、介護の状況を聞いて、必要としている支援について、知っている情報はお伝えしている。	○	他のサービス利用につなげていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居を行っている。	○	見学や体験入居を行い、場の雰囲気をかんじてもらい、職員や他の入居者とも馴染めるようにしていく。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事など担当の職員が企画して、職員も一緒に参加して楽しく過ごしている。(運動会、焼きいも、ひなまつり等)	○	職員も一緒に参加できるような行事等を企画して楽しんで過ごしていく。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会などで、一緒に陶芸作りを体験したりして、楽しい時間を共有している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には会話しやすい場所を提供している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	特別な日（誕生日）に本人の馴染みの場所に連れて行けるよう努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性に配慮したテーブルセッティングをし、関わり合いが深くなるよう取り組んでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から本人の思いをキャッチし、職員間で情報交換し共有している。	○	担当者が入居者の求めていることをじっくり聞く時間を設けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		○	本人、家族から生活暦を聞き取り、本人が馴染める暮らし方を把握できるよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝の申し送りや申し送りノートを活用して総合的な把握に努めている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		○	本人に望むことを聴き、家族にも意見を求め、介護計画に反映していく。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した新たな計画の作成が遅れ気味になっている。また家族や必要な関係者とは報告だけとなり、話し合いが出来ていない。	○	対応を工夫し計画を見直していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や生活記録を作成し、毎日継続して記録している。その記録をもとにミーティング等の場で協議し、介護計画の見直しに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて情報交換している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて情報交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて情報交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医に受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している特養の看護士に相談し健康管理の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	母体医療機関と連携している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、遠方の家族とはできるだけ早い段階から話し合い、方針を共有している	○	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有していきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者がなく取り組んでいない。	○	終末期については、独自のマニュアルを作成し、本人や家族に理解を求めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人より家族との話し合いを中心として必要な情報提供している。	○	本人や家族が安心できるところまでサポートしていきたい。
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを配慮した排泄誘導の声掛けお行い、プライバシーの確保の徹底に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人が自己決定できるような働きかけをしている。	○	いろいろな選択肢の機会を設け、自己決定できるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		○	家族からの話や本人との会話からどのように過ごしたいか思いを受け止め、希望に添えるよう支援していく
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		○	入浴の着替え、外出する時の服装などは本人と一緒に副を選んで準備していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食事を一緒に食べている。お膳をカウンターまで取りにきて、済んだときにはお膳をカウンターまでもってきている。る。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		○	月に一度は色々なおやつや飲み物を用意し、選ぶ楽しみを支援していきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックや行為などを把握し、自立に向けた支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3日に1回の回数で入浴している。湯温や入浴時間は希望にあわせている。また便失禁等があった場合などは必要に応じて入浴できるよう柔軟な対応をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない人には一緒にTVを見たり、話をしたり、また温かい柑橘系の飲み物を飲んでもらったりして、落ち着かれるまで傍で寄り添い、安心できるよう支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お魚の調理などは得意とされる入居者に頼んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者が所持していない。外出したときなど職員が支援して使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		○	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられる機会をつくっていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		○	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書を家族からまとめてもってきてもらい、葉書を書いた時には職員が預かり郵便でだしている。また電話を希望された時には、職員が番号を押して本人に受話器を渡し会話できるよう支援している。	○	自分で書いた年賀状を家人に出していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際には、のんびり気兼ねなく過ごせるよう和室を利用してもらっている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月1回開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また身体拘束廃止の取り組みについての内部研修も行っている。	○	拘束は身体だけでなく言葉や態度、薬等、勉強会などで理解を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中（7：00～20：00）は開放している。居室は管理できる方は、入居者自身で行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		○	本人に不快な思いをさせないような対応で把握していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は注意の必要な物品の保管庫については施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットが発生した時には所定の用紙に記録を書き、事故につながらないようにそれをもとに予防処置を立てたり、再度確認して未然に防げるように日々注意している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ＡＥＤの使い方や心臓マッサージなど急変時の対応や救急法の研修会を年に数回実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上消防署の指導により避難訓練を行っている。今年の11月には近隣住民、地区消防団員にも参加協力してもらい行った。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	防ぐことが出来ない転倒が起こりうることは入居時に家族に説明し了承してもらっている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回バイタルチェックをしている。いつもと違う変化がある時は他職員に報告し早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬箱のふたに薬事情報を記載し、いつでも把握確認できるようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立や、毎朝1杯の牛乳を飲んでもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に応じた口腔ケアーを毎食後実施している。必要に応じて歯科受診している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量や水分摂取の状況を継続的に記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成している。またインフルエンザ対策の文書を配布して感染症防止対策を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	作業終了後は消毒除菌を行い、衛生保持に努めている。食材に関しては1週間に1回の買出しや地元の業者からの仕入れなど新鮮なものを使用している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路沿いに畑を設けたり、日中は格子戸を開けて開放的にしている。また門から玄関へと続く中庭には草花や庭木があり、季節感を味わえる。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自由に使える和室のサブリビングやホールにソファをおいて居心地よくいられる共有の空間を作っている。壁紙や照明も色味をおさえている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファではそれぞれ自分の座る所定の場所が出来上がっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に使い慣れた生活用品を自由に持ち込んでいただき、思い出深い装飾品、写真などを飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に空調、２４時間換気が設置してあり、個々に対応できている。居間食堂には床暖房を敷設して好みの室温を調整している。また時間によって自然換気を取り入れている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレの要所に手すりを設置している。また食堂のテーブル、イスは2段階の高さにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレの表示は、入居者の目線に合わせている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季が感じられる中庭や田園風景、ウッドデッキを利用して戸外での活動ができるようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ○ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

地場産出の新鮮な食材に恵まれ、調理上手な職員が多いことから毎日の食事の献立も豊富で味もよく、入居者や家族にとても好評です。また田園風景は季節感を味わえ、贅沢な作りの建物や中庭、ウッドデッキなど開放感があり、ゆったりとした環境のもとで、毎日過ごされている。